

2. 指標設定

成果指標	指標名	農地の荒廃防止		—	指標の設定理由			
	数値	—			総合計画/後期基本計画において、基本施策(4-1-1)の目標としているため			
活動指標	指標	a	現地調査	b	遊休農地の把握	c	遊休農地の指導・解消	d
	数値	目標	3,579ha	目標	—	目標	3ha	目標

3. 実績（上段・実績/下段・達成率）

成果指標名	単位	H21	H22	H23
農地の荒廃防止	%	—	—	—

活動指標名	単位	H21	H22	H23
a 現地調査	ha		3,579 ha	3,579 ha
			100.0 %	100.0 %
b 遊休農地の把握	ha		105 ha	97 ha
			2.9 %	2.7 %
c 遊休農地の指導・解消	ha		0 ha	4 ha
			—	133.3 %
d				

4. 課題と対応

課題
若干の遊休農地の解消はあるが、農地所有者による自己保全が殆どであり、高齢化・後継者不足・不在地主の増加により、遊休農地は年々増加傾向にある。
対応（改善点等）
農地に復元して利用してくれる、認定農業者・集落法人・新規就農者及び企業参入等を推進する

5. 事業費・・・H21～H23（決算額）、H24（予算現額）

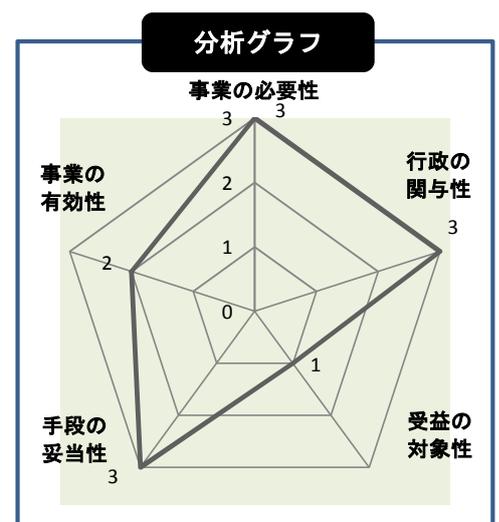
決算額（千円）		H21	H22	H23	H24
うち経常経費			2,868	1,392	1,423
			1,718	1,392	1,423
財源内訳	国費				
	県費		2,846	1,375	1,400
	市債				
	その他				
	一般財源		22	17	23
うち経常			22	17	23
事業費に係る人件費			4,818	7,224	7,729

6. H25年度予算の方向性

方向性
前年並
理由
同様のやり方で事業に取り組むため

7. 担当課による分析

着眼点	分析	分析根拠
① 事業の必要性	必要性の再確認	3 法令業務のため
② 行政の関与性	責任領域の精査	3 法令等により、農業委員会が実施主体であることが定められている
③ 受益の対象性	事業対象の確認	1 農地所有者に限られるため
④ 手段の妥当性	活動指標の分析	3 目的達成のために適切な手段である
⑤ 事業の有効性	成果指標の判断	2 一定の成果が上がっている



8. 内部評価委員会評価（委員会評価）

事業の方向性	評価内容
継続	後継者不足等の課題に対応するとともに効果的取組に努めること